

令和3年11月10日

富良野市教育委員会
教育長 近内 栄一 様

富良野市社会教育委員会
委員長 天日 守

今後の市立富良野図書館の社会教育施設としての在り方について（答申）

令和3年6月23日付けで諮問のありました「今後の市立富良野図書館の社会教育施設としての在り方」について、次の通り答申いたします。

富良野市社会教育委員会

委員長	天日	守
副委員長	遠藤	和章
委員	桑原	啓成
委員	三浦	宏幸
委員	高橋	宏明
委員	原田	武
委員	平間	早苗
委員	大橋	修一
委員	村田	知也
委員	永盛	俊行
委員	山本	由美
委員	中田	昭子

答 申 書

1、はじめに

人生100年時代を迎え、自己の充実や生活の向上のために、人生の各段階での課題や必要に応じて、あらゆる場所、時間、方法により学習者が自発的に行う自由で広範な学習環境を整える「生涯学習」が重要である。また、高度情報化時代ではICTを正しく適切に利用、活用できる力が必要であり、地方においてもネット環境に対応した環境を整えることも重要となってきた。

このような中、令和4年9月供用開始を予定している市役所新庁舎には、文化会館機能が集約されるため、本市における社会教育活動・公民館活動・文化振興の拠点として市民に長年愛され活用されてきた文化会館は、供用開始と同時にその機能を終えることとなる。また、図書館3階に所在している教育委員会学校教育課及びこども未来課は、新庁舎へ移転となり、図書館施設は3階部分を含めて利活用が図られることとなる。

先に諮問のあった「今後の市立富良野図書館の社会教育施設としての在り方」について、社会教育委員による調査、意見交換などを通して審議を行ってきた。本答申は、文化会館の利用状況及び教育委員会で実施した文化会館利用団体や図書館で活動しているボランティアサークルなどとの意見交換、さらには図書館利用者のアンケート調査の結果も考慮しながら、新庁舎業務開始以降の図書館施設の利活用を中心に社会教育（公民館）活動について検討したものである。

2、現状

1) 市立富良野図書館

市立富良野図書館は、昭和47年に旧富良野市中央公民館（若松町）の施設を改修して誕生する。昭和48年からは移動図書館車を運行し、全市的な図書館活動を展開してきた。平成3年7月に、現在地に複合施設として1、2階は図書館、3階は富良野情報プラザ（平成15年3月廃止）としてオープンし現在に至る。

図書館は、生涯学習の情報提供機関として、運営の基本方針に基づき年度ごとに重点項目を定め、市民に役立つ図書館運営を推進している。

蔵書冊数は平成30年131,758冊をピークに、令和2年度は121,194冊

と、現在は10万冊を目安としている。貸出冊数は平成21年をピークに164,982冊、その後も16万冊前後で推移していたが、平成29年度には150,293冊と減少に転じ、令和2年度はコロナ禍の影響もあり115,329冊となり、市民一人当たりの貸出冊数は5.5冊となっている。利用登録人数は年々増え、令和2年度は市民で13,070人が登録をし、人口の62.8%が登録していることとなる。

平成23年度よりブックスタート事業（生後7ヶ月）を開始し、28年度からはブックスタートプラス事業（1歳6ヶ月）も実施している。さらに、令和元年度からは施設入所者への図書サービス（いきいきサポートボックス）事業を開始している。

開館時間は、平日は午前10時から午後6時までである。水曜日は平成28年度から試行的に午後7時まで時間延長しているが、令和2年度のこの時間帯の平均貸出人数は5.6人であり、あまり多くない人数となっている。

図書館施設の使用認定を受けている利用団体・サークルは、令和2年度13団体あり、令和元年度は延220回の利用があったが、利用団体数は減少傾向である。

2) 図書館3階

図書館の3階部分は、情報プラザ廃止後は、一時、郷土資料館として活用されたが、生涯学習センターに博物館が設置されたことから、そちらに移設される。平成15年10月に市役所で執務を行っていた教育委員会学校教育課が、市役所の耐久問題、老朽化により教育長、学校教育課が3階部分で執務を行うこととなり、適応指導教室も新たに開設された。3階には新たに教育長室及び教育委員会室が設けられ、会議室は主に教育委員会関係の会議で使用されることとなる。平成29年度からは市の機構改革により、こども未来課が教育委員会部局となったことから、3階ロビーに一室を設け執務を行うようになる。

3) 富良野文化会館

昭和46年に1階部分は富良野市中央公民館、2階及び大ホール部分は文化会館として併設しオープンする。開館当初より社会教育課、中央公民館、文化会館の各課が執務をし、社会教育・公民館及び文化振興の拠点施設として現在に至る。

平成29年度より、文化振興及びスポーツ振興の担当部署が教育委員会から市長部局へ移管され、市民協働課が担当している。

施設の利用は、行政の会議及び教育委員会の事業並びに社会教育関係団体、公民館サークル、文化団体などの例会、活動、そして市民の会議、交流会及び大ホールでの発表会など多方面で利用されている。令和3年度の文化団体・サークルの利用団体数は10団体と以前よりは減少傾向にある。

3、市立富良野図書館の利用者に関するアンケート結果

文化会館が新庁舎に統合され、また、図書館3階の教育委員会が新庁舎に移転することから、図書館3階を含めた図書館の在り方などを検討するための資料とするために、図書館利用者に対するアンケート調査を実施した。

アンケート調査の内容は次のとおりである。

- ◆実施期間 令和3年8月6日～15日（10日間）
- ◆回答数 91名 図書館利用者に対し、幅広い年代に依頼する
- ◆アンケート項目
 - ①図書館の開館時間・曜日について
 - ②社会教育施設（公民館機能）として活用する場合の開館時間・曜日について
 - ③現在図書館の利用満足度
 - ④社会教育施設の有効活用で充実してほしい項目
 - ⑤その他改善・充実してほしい事項
- ◆アンケート結果
 - ①回答年齢層は10代～70代以上の10歳刻みで、20代が3%と最も低く、次に10代の8%である。40代が25%と最も多く、他の年代は15～17%である。
 - ②職業別の内訳は、会社員・パートが54%で最も多く、次に主婦21%、無職16%、自営業8%、学生6%となっている。
 - ③現図書館の開館時間及び開館曜日については、どちらも回答者の86%が満足と回答し、延長を希望しているのは14%であった。
回答者は、自分の都合の良い時間、曜日に来館している方だとすれば、満足が多く占める結果も当然と思われる。
なお、延長希望時間帯では、9時開館が4名（全体の4.3%）、19時閉館が5名（同5.5%）、20時・21時・22時閉館がそれぞれ1名であった。
 - ④社会教育施設として活用する場合の開館時間・曜日については、図

書館の開館時間と同じで良いが91%で、延長希望は9%であった。開館曜日も同様な傾向で、図書館と同じが89%、延長希望は11%である。

回答者は図書館のみを利用している方と推察され、このような結果となったと思われる。

- ⑤現図書館の利用満足度では、施設設備、案内表示、本の探しやすさ、職員の対応、予約・リクエストサービス、Wi-Fi環境について尋ねたが、本の探しやすさが41%で他は58%以上であり、満足・やや満足を合わせるとほぼ100%に近い満足度で、やや不安が若干見受けられるものの、不満は0であった。また、職員の対応については80%を超えた満足度である。
- ⑥社会教育施設の有効活用で充実してほしい項目では、快適に使える施設のための空調・トイレなどの充実が34%、個人で気軽に過ごせるラウンジや部屋などの充実が32%で、以下、所蔵資料の質及び量の充実、静かに読書や学習できる部屋の充実、飲食スペース、人と交流できる・集えるスペースの充実の順となっている。
- ⑦その他改善・充実してほしい事項では、施設設備の整備、喫茶スペースの設置、学習スペース、大活字本の充実、図書館だよりや館内の案内の充実、蔵書の探しやすさの工夫、祝日開館など、54名から様々な意見が寄せられた。

今回、社会教育委員の意見により急遽アンケート調査が実施されたが、市民ニーズの把握の観点から施設をどう活用するのかなどを含めもう少し掘り下げた調査とすべきであった。また、利用者限定した調査ではなく、普段利用していない市民や児童・生徒からも多くの意見を得るべきと思われる。その結果を基に、今後のより良い図書館、施設の運営に役立てるべきである。

4、今後の市立富良野図書館の社会教育施設としての在り方について

1) 図書館のめざすべき姿について

図書館の目的は、図書、記録及びその他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究及びレクレーション等に資する施設である。(図書館法第2条)

図書館は、「本を借りるところ」「静かにするところ」「飲食をし

てはいけないところ」というイメージが定着している感があるが、近年では、Wi-Fi環境を整備し手軽にネット検索を行ったり、図書館内にカフェを併設し飲食物を持ち込んで利用することのできる施設も増えてきている。

今後、新たな利用者の増加に向けて、来館者のみならず多くの市民に対するアンケート調査を実施し、新たな市民ニーズや時代の変化に対応した事業を検討すべきである。

市立富良野図書館は、本年4月より利用者サービスの一環としてWi-Fi環境を整備し、情報化への対応を進めてきたが、今後も、施設のICT化を積極的に進め、電子図書の整備、非接触貸し出しシステムの導入、館内でのタブレット端末機の貸し出し、アンケート調査の実施による市民ニーズへの対応などにより、読書や本離れを防ぎ、読書の楽しさを発信する図書館運営に努められたい。

富良野市は、幼児期からの読書推進に取り組んでいる。今後も、「子どもの読書推進プラン」に基づき、家庭、学校、地域における読書活動及び読書環境整備を推進すべきである。特に、学校図書館への支援を図りながら、学校における読書活動の推進が望まれる。

2) 社会教育施設としての機能充実について

新庁舎へ移転する教育委員会学校教育課、こども未来課の事務室跡も含めて、施設の2階、3階部分は、集まる、学ぶ、つなぐ役割を担う公民館機能を備えた生涯学習（社会教育）施設として、図書館活動に影響のない範囲での活用を検討すべきである。

今まで文化会館（公民館）を中心として社会教育関係団体は活動をしてきたが、新庁舎供用開始後は新庁舎で活動を継続する団体と利用希望の競合により利用できない団体が出る可能性がある。このため、社会教育関係団体やできれば一般市民も利用することのできる部屋の提供を検討願いたい。なお、各部屋は受益者負担の原則により有料化を検討すべきであるが、活動支援のために今までと同様に団体によっては使用料の減免措置を講ずるべきである。

社会教育関係団体の自主的な活動を支援するために、団体の資料保管場所や無料打合せ室を確保するとともに、市民の学習成果を発表（展示）する場の確保が望まれる。

従来から図書館に中高校生の学習スペースの設置が望まれているため、現在は簡易的なスペースとして2階スペースに設置されている。しかし、学習する環境としては完全なものではないため、2階または

3階に部屋として死角の無い学習スペースを、さらには、図書館利用者が利用できるサイレントルーム（静かに読書のできる場）の設置が望まれる。

施設内に多種多様な飲食の自動販売機を設置し、飲食をしながら読書のできるカフェラウンジ的なスペースの設置が望まれるところであり、今後の管理運営のためにも、要所要所に防犯カメラを設置し、安全安心な施設運営ができるよう配慮願う。

建物は築30年を経過し老朽化してきてはいるが、施設設備の計画的な整備を行うことによりまだまだ使用に耐え得るものとなる。環境整備に向けて早急に冷暖房改修を中心に整備計画を望むものである。

施設の名称は、施設の目的を端的に表すものでもある。わかりやすい施設の名称を検討するとともに、利用しやすい親しみのある愛称を付け、本市の生涯学習の拠点施設として位置付けるべきである。生涯学習施設としての整備後は、市民に対してわかりやすく利用、活用しやすい施設周知を行う必要がある。

3) 望ましい管理運営について

今後は、図書館としてだけではなく、生涯学習の拠点施設として活用するためには、開館時間や開館日などは現文化会館と同様な対応が望ましい。

さらに、管理運営にあたっては、市民の立場に立った運営でのサービス向上や、効率性、民間のノウハウを生かした柔軟な取り組みが期待できる指定管理者の導入や運営の一部を業務委託にするなど、民間活力による運営の検討を願うものである。

5、おわりに

今後の図書館の在り方は、少子高齢化、高度情報化、利用者ニーズの多様化を考慮し、さらに施設面では公民館機能を備えた生涯学習（社会教育）施設へと変わることにより、本市の生涯学習施設の拠点施設として充実したものとなると思われる。今後も、多機能型の生涯学習施設として社会教育（公民館）活動が衰退することなく推進されるよう、強く望むものである。

